



# JSBMR Newsletter No. 19

日本骨代謝学会／The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

## — 第 30 回日本骨代謝学会学術集会の御礼 —

第 30 回日本骨代謝学会学術集会は、全国より 1,100 名以上の方々にご参加をいただき、盛会のうちに終了いたしました。ご支援・ご参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

尚、IBMS-JSBMR 2013(第 31 回日本骨代謝学会学術集会)が来年、2013 年 5 月 28 日(火)～6 月 1 日(土)、神戸国際会議場・神戸ポートピアホテルに於いて野田政樹会長、吉川秀樹 Japan Day 会長のもと、開催されます。是非とも多くの先生方にご参加をいただきますようお願い申し上げます。

日本骨代謝学会理事長 米田 俊之  
第 30 回日本骨代謝学会学術集会会長 加藤 茂明

## ～～～～～ 2012 年度の各賞が決定しました ～～～～～

5 月に行われた選考委員会・理事会において、2012 年度の各賞が下記のように決定いたしました。

- 【学会賞】 該当者なし
- 【尾形賞】 米田 俊之 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室)
- 【学術賞】
  - <基礎系> 小林 泰浩 (松本歯科大学総合歯科医学研究所硬組織機能解析学)
  - <内科系> 竹田 秀 (慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科)
  - <外科系> 宮本 健史 (慶應義塾大学医学部整形外科学教室)
- 【研究奨励賞】
  - <基礎系> 中島 友紀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)
  - <基礎系> 増山 律子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科分子硬組織生物学分野)
- 【優秀演題賞】
  - <基礎系> 林 幹人 (独立行政法人科学技術振興機構 ERATO 高柳オステオネットワークプロジェクト)
  - 相澤 怜 (昭和大学歯学部口腔生化学講座)
  - <臨床系> 杉田 守礼 (東京大学医学部整形外科)
- 【JBMM 論文賞】 吉村 典子 (東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター)

## ～～～～～ JBMM 誌インパクト・ファクター発表 ～～～～～

2012 年 6 月に発表された日本骨代謝学会英文誌「Journal of Bone and Mineral Metabolism」の

インパクト・ファクターが、**2.268** となりました！

一名誉会員からのメッセージ  
骨代謝研究と私

公益財団法人骨粗鬆症財団理事長

折茂 肇

1) ある患者さんとの出会い(1960年)

骨代謝の研究を始めてからかれこれ50年が経過した。私がこの分野の研究に興味を持つきっかけとなったのはある患者さんとの出会いであった。

私は、昭和34年に東大医学部を卒業し、一年間のインターン生活を送った後、当時の沖中内科に研究生として入局し、2年目に受け持ったのが「Fanconi症候群」という大変珍しい骨疾患の患者さんであった。この疾患は、クル病、糖尿、アミノ酸尿、低リン血症等を主症状とする腎性クル病の一型で小児の疾患とされていたが、私の患者さんは当時二十歳で色々と文献を調べてみると本邦では初めての成人型の症例である事が明らかとなった。この症例との出会いが私の骨研究の第一歩となった事は今では懐かしい思い出となっている。私がこの分野の研究者として今日まで生き延びるきっかけを作ってくださったのは恩師(故)沖中重雄先生である。当時沖中内科では入局後2年間の一般内科医としての研修が終了すると教授の指令により専門分野が決められるというしきたりがあった。

私は、沖中先生から内分泌の研究グループに入り、藤田拓男先生(現神戸大学名誉教授)と一緒にカルシウム代謝の研究をするように言われた。その時、先生は「カルシウム代謝の研究をしている人は日本では殆どいない。君、苦勞するよ」と言われたがこの言葉は五十年後の今でも鮮明に覚えている。この言葉を言われた当時は“ピン”とこなかったが、その後、“なる程な”と思う経験を嫌という程した。カルシウム代謝に関する研究成果は内分泌学会で発表されていたが研究発表者はいつも2~3名で学会の最終日に小さな部屋で座長からは御趣味のある人は後で討論してくださいなどと言われて頭に来る事が多かったが藤田先生からは「人のまねはするな。国際的に通用する仕事をしろ。」と叱咤激励され、それが研究をつづける大きな原動力となったと思う。

2) 原発性骨粗鬆症の診断基準作成時の思い出(1995年)

骨粗鬆症は極めて学際的な疾患で整形外科、内科、(老人科)、婦人科、放射線科、小児科等専門分野の異なる医師がその診療にかかわっており本症に対する対応の仕方も診療科により大いに異なっている。1995年日本骨代謝学会では骨粗鬆症診断基準検討委員会を作り骨粗鬆症の診療にかかわる各専門分野の代表委員のコンセンサスを得て診断基準を作成した。私が作成委員長をおおせつかり整形外科の委員との激論の末、何とか我が国独自の診断基準を作成した事は今では、懐かしい思い出となっている。1995年WHOが骨粗鬆症とは低骨密度を呈し、骨折の危険性が亢進した疾患と定義し、骨密度を用いた新しい診断基準を提唱した。欧米では骨粗鬆症の患者さんの多くはリウマチ科、内分泌内科の医師が診ており、整形外科の医師は骨折患者のみを診ているのが現状で、WHOの診断基準は臨床疫学の研究を推進する為には診断基準を統一する必要があるとの理由で作成されたとの事であった。我が国では、骨粗鬆症の患者さんはその70~80%は腰背部痛、骨折などの症状で整形外科医を受診している。整形外科医の間では骨折患者に対応する機会が多いためか「低骨密度のみでは骨粗鬆症とは言えない。骨折がある症例のみが骨粗鬆症である。」という考え方が主流を占めていた。私は作成委員長としてWHOの骨密度を用いた新しい診断基準を我が国に取り入れる事はグローバルな観点からも必要であると考えていたので大変苦慮した。整形外科の委員と激論を交わした末、我が国独自の診断基準の作成にやっとの思いでこぎつけたことは、画期的な事だと思っている。

## 2011年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2011年11月～2012年3月末)

### ■2011年度 第4回理事会議事録■

日時: 2011年11月15日(火) 13時45分～15時45分

会場: 千里ライフサイエンスセンター 5階 501号室

議事:

2011年度第2～3回理事会議事録(案)の承認(米田理事長)  
2011年7月27日～28日に開催された2011年度第2～3回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、田中理事、伊東理事が担当することとした。

<報告事項>

#### 1. 庶務報告(大藪理事)

大藪理事より、2011年10月31日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。なお、5年以上の年会費長期未納者について提示があり、関係の滞納者へ督促する旨、了承した。

#### 2. 会計中間報告(米田理事長)

米田理事長より、2011年9月30日時点での会計中間報告があり、了承した。また、第29回学術集会事務局より、剰余金として、300万円以上の入金が入金予定されているとの報告があった。

#### 3. 各種委員会報告

##### 1) あり方委員会(米田理事長)

米田理事長より、第29回学術集会にて開催された産学連携プログラムの内容について、賛助会員を対象にアンケート調査を行い総じて好評であったこと、ならびに第30回学術集会においても本プログラムを継続して開催する旨、報告があった。また、同じく第30回学術集会において開催を予定している若手シンポジウム企画について、基礎系・内科系の各演者(案)ならびに演題名(案)の報告があり、了承した。

##### 2) 国際渉外委員会(米田理事長)

米田理事長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・John Kanis IOF 会長より、2014年 IOF との Joint Meeting を日本で開催してほしいとの依頼があった。
- ・2012年9月2日～5日にオーストラリアにて開催される ANZBMS Annual Scientific Meeting について、Ming-Hao Zheng 会長より、同 Meeting 会期中に 1st Asia-Pacific Bone and Mineral Research Meeting を開催するため、参加の呼びかけがあった。これに対し、Travel Award を設け、多くの若手研究者への参加を奨励することを検討している。

##### 3) JBMM 編集委員会(野田理事)

野田理事より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、

主に以下の報告があり、了承した。

- ・採択率は、10月31日現在で、2011年投稿論文:26.2%、2010年度:31.6%、2009年度:37.1%であり、審査が厳しくなっている。
  - ・2011年10月31日時点の国別投稿状況について、国内19%、海外81%であった。
  - ・投稿から判定までの平均日数は採択論文の場合114日、不採択の場合45日となっている。
  - ・Review Article の引用回数が多いため、理事各位へ、海外の関連研究者へ Review 執筆者の紹介を依頼したい。
  - ・月間のダウンロード数は毎月約6,000回であり、アメリカ、日本、フランスからのダウンロード数が上位を占めている。
- 4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)
- 杉本委員長より、骨軟化症の診断マニュアルについて、福本委員が作成した案を厚生労働省の班研究分科会にて討議し、現在まとめの作業を行っている旨、報告があった。
- 5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会:報告事項なし
- 6) 骨密度基準値設定委員会:報告事項なし
- 7) 広報委員会(伊東理事)
- 伊東理事より、7月29日に委員会を開催した旨、報告があった。また、以下の4つの提案事項について審議し、下記の通り了承した。
- ・会員専用ページ内の会員一覧ページへ、会員の E-Mail アドレスを掲載してはどうかとの提案があり、E-Mail アドレス掲載可否のアンケート用紙を、2012年4月に発送する年会費請求書に同封することとした。
  - ・本学会や骨代謝の歴史等について名誉会員の先生方に Newsletter へ寄稿いただいてはどうかとの提案があり、執筆を依頼することを了承した。
  - ・本委員会へ会員数増加検討委員会委員より1名、アドバイザーとして参加してもらってはどうかとの提案があり、了承した。
  - ・本委員会へ若手の新委員(臨床系)を追加してはどうかとの提案があり、了承した。
- また、野田理事より、骨代謝分野の疾患を持った患者からの相談を受け付ける窓口をホームページ内に開設してはどうかとの提案があり、委員会にて検討することとした。
- 8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田理事長)
- 米田理事長より、「ビスフォスフォネート系製剤」添付文書について、厚生労働省医薬食品局安全対策課長より、11月8日付にて添付文書の改訂版が届いた旨の報告があった。改訂された内容として、静注製剤・注射製剤・経口製剤の取り扱いが分かれたこと、「指示」が「指導」になったこと、「大腿骨転子下及び大腿骨骨幹部の非定型骨折」が追記されたこと等の報告があった。なお、本学会より提出していた要望について、不採択となった旨、合わせて報告があった。

9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会 (宗圓理事)

宗圓理事より、国内で行っているステロイド性骨粗鬆症の 2 つのコホートデータを解析し、日本人のリスクファクター等を抽出する作業を進めている旨、報告があった。

10) 椎体骨折評価委員会 (宗圓理事)

宗圓理事より、11 月 5 日に委員会を開催した旨、ならびに主に以下の報告があった。

- ・現在、骨代謝関連の学会において、椎体骨折評価のシンポジウムを開催し、パブリックコメントを収集している。
- ・SQ 法について、グレード 1、2、3 と 0 を比較するための専用の形のシャドウが追加された絵があり、今後、それを使用していく予定である。
- ・脊髄側面 X 線像で判定出来ない場合の補助診断として正面 XP、MR を追加した形で判定基準を作成する予定である。
- ・椎体骨折に関連する用語を統一するため、用語の定義を行うこととなった。
- ・現行判定基準に SQ 法を追加し、また、補助診断として脊椎正面 XP と MR を追加した判定基準の草案を作成している。

11) 会員数増加検討委員会 (田中委員長)

田中委員長より、第 29 回学術集会において「筋研究の最前線」をテーマにシンポジウムを開催し、第 30 回学術集会においても継続して開催する予定である旨、報告があった。また、関連学会へ配布する JBMM の日本語版チラシを作成した旨、報告があった。なお、以下の 8 つの提案事項について審議し、下記の通り了承した。

- ・学術集会への臨床系の参加者数を増やすため、骨代謝学会と関連があり、かつ専門医 (認定医) 制度のある学会へ「関連学会」としての登録を依頼し、学術集会においてそれらの学会の専門医 (認定医) の単位を定期的に取得できるようにしてはどうかとの提案があり、了承した。
- ・会員専用ページに学術集会で開催したシンポジウムのスライドや動画のダイジェスト版を主催企業に作成してもらい、掲載してはどうかとの提案があり、継続して審議することとした。
- ・新規の Travel Award を増設してはどうかとの提案があり、選考基準等について具体的な案を作成することとした。
- ・臨床系の先生の学術集会への参加を促すため、学術集会の開催日程を現行の木曜日～土曜日から、金曜日～日曜日に変更してはどうかとの提案があったが、会場費が高くなることを考慮し、現状維持することとした。また、夕刻のプログラムを増やしてはどうかとの提案があり、委員会で引き続き検討していくこととした。
- ・学術集会最終日に学会のオーバーレビューあるいは薬剤のエビデンスレビューを行うセッションを設けてはどうかとの提案があったが、発表者の準備負担が大きいため、実施の可否について委員会で引き続き検討していくこととした。

・企業から寄付金を集め、グラント制の公募プロジェクトを設けてはどうかとの提案があり、あり方委員会と合同で協議していくこととした。

・ウィンターセミナーを開催してはどうかとの提案があり、あり方委員会と合同で検討していくこととした。

・学会退会の申し出があった際に、退会理由をヒアリングしてはどうかとの提案があり、現行の退会届に記入欄を設けることとした。

12) 原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会 (福永委員長)

福永委員長より、7 月 29 日ならびに 11 月 3 日に第 1 回、第 2 回委員会を開催し、委員長代行として宗圓委員、副委員長として杉本委員が就任した旨、報告があった。また、主に以下の検討課題について協議した旨、報告があった。

・SD 表記と % 表記について

・osteopenia について

・脆弱性骨折について

・severe osteoporosis について

・L1～L4、L2～L4 の BMD について

・橈骨、中手骨の % 表記について

・男性骨粗鬆症ならびに QUS の採用について

・若年者での大腿骨について (YAM 値の検討)

なお、大腿骨 YAM 値や BMD 値の cut off レベル等といった引き続き検討すべき課題については、慎重かつ迅速に議論していきたい旨、報告があった。

4. 第 30 回日本骨代謝学会準備状況について (加藤第 30 回会長)

第 30 回プログラム委員会にて報告

5. IBMS2013 の開催について (野田会長)

IBMS-JSBMR 2013 実行委員会にて報告

6. 第 32 回日本骨代謝学会準備状況について (杉本第 32 回会長)

杉本会長より、第 32 回日本骨代謝学会の日程、会場について、2014 年 7 月 24 日 (木)～26 日 (土) に、大阪国際会議場で予定している旨、報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載許可について (米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼 12 件、ステロイドガイドライン和文簡略版の転載依頼 1 件、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパーの転載依頼 1 件、ならびに JBMM (Vol.29-4、Vol.29-5) からの転載依頼 2 件について報告があり、了承した。

8. その他

a) Asia Pacific Regional Election について (米田理事長)

米田理事長より、IOF から Asia Pacific Regional Election の投票依頼があり、折茂 肇先生ならびに Ego Seeman 先生

へ投票した旨、報告があった。

- b) 骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインについて(宗圓理事)  
宗圓理事より、骨粗鬆症財団、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会の3団体が編集し、ライフサイエンス出版(株)より発行予定の『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年度版』について、最終的な確認作業を11月末に東京で行う旨、報告があった。なお、本ガイドライン英語版(ダイジェスト版)のJBMMへの掲載依頼を、次回のガイドライン委員会にて宗圓理事が行うこととなった。
- c) 日本骨代謝学会のレターヘッドについて(米田理事長)  
米田理事長より、学会のレターヘッドを作成した旨、報告があった。
- d) 佐藤光三評議員からのお手紙について(米田理事長)  
佐藤光三評議員より米田理事長宛に評議員会運営についての意見の手紙が届いた旨報告があり、下記の通り、佐藤評議員へ回答した旨、報告があった。
- ・評議員会資料は当日配布ではなく、事前に配布してはどうかとの提案があり、可能な部分に限り事前に送付する。
  - ・評議員会欠席時に提出する委任状内に、各議案についての賛否を記入できる欄を設けてはどうかとの提案があったが、審議事項の中で別途記入欄を設ける必要のある議題のみ実施することとした。

<審議事項>

1. 新評議員の推薦について(米田理事長)  
大菌理事、吉川評議員より、難波範行先生の評議員推薦があり、全会一致で承認した。
2. 2014年IOFとのJoint Meeting開催について(米田理事長)  
協議した結果、Joint Meetingを日本骨粗鬆症学会と本学会の2学会合同で開催することとした。また、大会長については、上記2学会の理事を務めており、IOFのRegional Advisory Councilの委員である萩野理事を本学会から推薦する旨、ならびに開催時期については12月を開催候補月とする旨、全会一致で承認した。
3. 年会費のオンライン決済について(米田理事長)  
米田理事長より、年会費のクレジットカードおよびコンビニエンスストアのオンライン決済導入の提案があり、全会一致で承認した。また、コンビニ収納時に発生する払込手数料については、会員負担とせず、学会が負担することとした。なお、導入開始時期は、第1回目の会費請求を行う2012年4月からとした。

■2011年度第5回理事会議事録■

日時: 2012年3月30日(金) 13時45分~15時15分  
会場: 千里ライフサイエンスセンター 5階 501号室  
議事:

2011年度第4回理事会議事録(案)の承認(米田理事長)  
2011年11月15日に開催された2011年度第4回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、福本理事、水沼理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告(大菌理事)

大菌理事より、2012年2月29日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。また、日本たばこ産業(株)より賛助会員退会の申請があった旨、報告があった。なお、所属先住所ならびに自宅住所のいずれもが住所不明になっている会員一覧の提示があり、新たな連絡先が判明した場合には、事務局まで連絡いただくよう呼びかけがあった。

米田理事長より、年会費のクレジットカードおよびコンビニエンスストアのオンライン決済導入について説明があった。導入開始時期は、2012年6月頃を予定とし、未納者へオンライン納入案内のメールを送ることとした。また、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年版著作権使用料として7,166,556円、ならびに骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2011年版関連出版物著作権使用料として1,680,000円がライフサイエンス出版より学会へ支払われる予定である旨、報告があった。

2. 会計中間報告(水沼理事)

水沼理事より、2012年2月29日時点での会計中間報告があり、了承した。また、第29回学術集會事務局より、大会剰余金として4,332,003円が返金された旨、報告があった。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、第30回学術集會において開催を予定している産学連携プログラムの演者ならびに講演内容についての報告があり、了承した。また、以下3つの提案事項が出され、下記の通り了承した。

- ・臨床の先生や企業の参加を促すため、学術集會において、治療指針のState of the Artやガイドラインに関するセッションあるいは教育講演などを毎年固定で開催してはどうかとの提案があり、継続的に審議していくこととした。
- ・優秀演題賞の採点方法について、従来の抄録を採点する方法に加えて、口頭発表審査を導入してはどうかとの提案があり、プログラムや時間配分などの具体的な要項をあり方委員会で引き続き検討することとした。
- ・骨粗鬆症学会と骨代謝学会を合同で開催してはどうかとの提案があり、継続的に審議していくこととした。

2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、主に以下の報告があり、了承した。

- ・2012年9月2日~5日、オーストラリアでのANZBMS Annual Scientific Meeting会期中に開催される1st Asia-Pacific Bone and Mineral Research Meetingにおいて、Travel Award応募者のうち、第30回骨代謝学会における登録演題の査読点数

が上位 25 名までの先生方に一律 15 万円の Travel Grant を支給する予定である。

- 2013 年 5 月 28 日～6 月 1 日に神戸にて開催される IBMS-JSBMR 2013 において、プログラムの一日目に、Asia Pacific 地域の参加者を集めた Asian Session を開催する予定である。
- IOF の Capture the Fracture プログラムについては、具体的な活動内容が未だ不明なため、活動状況に進展があり次第、改めて報告する予定である。
- 2012 年 5 月 20 日にスウェーデンのストックホルムにて開催される ECTS Affiliated Societies Forum Lunch への参加者が未だ決定していないため、引き続き検討していく予定である。

### 3) JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野委員長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があり、了承した。

- 採択率は 3 月 10 日現在で、2011 年投稿論文:24.8%、2010 年度:31.6%、2009 年度:37.9%であり、審査が厳しくなってきた。
- 2012 年 3 月 10 日時点の国別投稿状況について、国内 31%、海外 69%であった。
- 投稿から判定までの平均日数は採択論文の場合 117 日、不採択の場合 49 日となっている。
- Review Article の引用回数が多いため、理事各位へ、海外の関連研究者へ Review 執筆者の紹介を依頼したい。
- 月間のダウンロード数は毎月約 6,000～7,000 回である。

### 4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、本委員会において、日本内分泌学会、厚生労働省・松本監事の班研究、骨代謝学会の 3 組織合同で、くる病・骨軟化症の診断マニュアル策定のための小委員会を立ち上げたい旨の提案があり、承認された。なお、小委員会の委員として、松本監事、道上先生、竹内先生、皆川先生、岡崎先生、大菌理事、福本理事、杉本委員長の 8 名を予定している旨、報告があった。

### 5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会:報告事項なし

### 6) 骨密度基準値設定委員会:報告事項なし

### 7) 広報委員会(伊東理事)

伊東理事より、主に以下の報告があり、了承した。

- 名誉会員の先生方に本学会や骨代謝の歴史等についてのエッセイを執筆いただき、Newsletter へ掲載する件について、2012 年 1 月発行の Newsletter No.18 に藤田拓男名誉会員の寄稿文が掲載された。なお、次号 Newsletter No.19 については、折茂先生に執筆を依頼する予定である。
- 会員専用ページ内の会員一覧ページへ、承諾をいただいた会員の E-Mail アドレスを掲載する件について、E-Mail アドレス掲載可否のアンケート用紙(案)の提示があり、承認された。については、本用紙を 2012 年 4 月に発送する年会費請求書へ同封する予定である。

### 8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田理事長)

米田理事長より、近日中に発売となる医薬品「デノスマブ」による顎骨壊死が問題となった場合、委員会の開催を予定してい

る旨、報告があった。

### 9) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会:報告事項なし

### 10) 椎体骨折評価委員会(伊東理事)

伊東理事より、委員会の現在の進捗について、主に以下の報告があった。

- 現在、SQ 法判定結果表を 44 名の先生方から回収し、データ解析を行っている。QM 法については 6 名の Expert の先生方に QM 法判定を依頼し、2012 年 4 月中に判定結果表を回収する予定である。
- 日本脊椎椎間病学会ならびに日本整形外科学会において椎体骨折評価のシンポジウムを開催し、パブリックコメントを収集する予定である。

### 11) 会員数増加検討委員会(福本理事)

福本理事より、学術集会への臨床系の参加者数を増やすため、骨代謝学会と関連があり、かつ専門医(認定医)制度のある学会へ、骨代謝学会において専門医(認定医)の単位を定期的に取得できるよう依頼状を送付した旨報告があった。その結果、日本リハビリテーション学会、日本歯科放射線学会、日本口腔インプラント学会の 3 学会から認定が下り、11 学会は認定不可、残りの 12 学会からは返答待ちである旨、報告があった。

### 12) 原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会(杉本委員)

杉本委員より、2012 年 3 月 11 日に委員会を開催し、診断基準の主な改訂箇所として、以下の事項を決定した旨、報告があった。

- 既存骨折のうち、椎体および大腿骨近位部骨折があれば、骨密度と関係なく骨粗鬆症とし、その他の骨折がある場合は骨密度が YAM80%未満の例を骨粗鬆症とする。
- 腰椎と大腿骨近位部は SD と%を併記し、橈骨と中手骨は%表記とする。
- 骨量減少(low bone mass)は-1.0SD とする。
- 腰椎骨密度の測定値は L1～L4、L2～L4 を採用する。
- 男性の骨密度測定部位については、大腿骨と腰椎を用いる。
- QUS は採用しない。

また、松本監事より、骨量減少を-1.0SD とした場合、治療対象者数の減少が懸念される旨の意見があり、骨量減少の定義について、次回委員会にて検討することとした。

なお、2012 年 6 月に開催される次回の委員会にて最終案を確定する予定である旨、報告があった。

### 4. 第 30 回日本骨代謝学会準備状況について(加藤第 30 回会長)

第 30 回プログラム委員会にて報告

### 5. IBMS2013 の開催について(野田会長)

IBMS-JSBMR 2013 実行委員会にて報告

### 6. 第 32 回日本骨代謝学会準備状況について(杉本第 32 回会

長)

杉本会長より、第32回日本骨代謝学会の日程、会場について、2014年7月24日(木)～26日(土)に、大阪国際会議場で予定している旨、報告があった。

#### 7. 学会誌掲載論文の転載許可について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会以降に依頼のあった、原発性骨粗鬆症の診断基準の転載依頼20件、ステロイドガイドラインと文簡略版の転載依頼3件、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパーの転載依頼2件、骨粗鬆症患者QOL評価質問表の転載依頼1件、骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインの転載依頼35件、ならびにJBMMからの転載依頼2件について報告があり、了承した。

#### 8. その他

a) 第86回日本整形外科学会学術総会企画(演者)提案依頼について(米田理事長)

米田理事長より、第86回日本整形外科学会から教育研修講演、シンポジウム、およびパネルディスカッションのタイトルや演者についての提案依頼があり、福本理事、田中(栄)先生より日整会へ提案いただいた旨、報告があった。

b) IOF Board Election について(米田理事長)

米田理事長より、IOFからGlobal Electionの投票依頼があり、Asia-Pacific地域においては、折茂 肇先生ならびにPeter Ebeling先生へ投票した旨の報告があった。また、投票の結果、折茂先生がIOF Board memberとして選出された旨、合わせて報告があった。

#### <審議事項>

1. 2012年度各賞選考スケジュールおよび審査について(米田理事長)

米田理事長より、2012年度の学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞、JBMM論文賞の選考スケジュール(案)の提示があり、承認した。また、学術賞、研究奨励賞については、応募締め切りを2012年4月13日(金)まで2週間延長することとした。

2. 2014年IOF/JOS/JSBMR Joint Symposium について(米田理事長)

米田理事長より、2014年Joint Symposiumの会長として中村利孝先生(産業医科大学)を推薦したい旨、提案があり、全会一致で承認した。また、学会からの大会補助金として100万円を拠出する旨も合わせて承認した。なお、開催日については12月10日(水)～13日(土)(於;大阪国際会議場)を予定している旨、報告があった。

#### ■各種委員会■

#### <第33回JBMM編集委員会議事録>

日時: 2011年11月15日(火)13:00～13:45

場所: 千里ライフサイエンスセンター 5階 502号室

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

#### 1. 投稿状況(p.1-5)

清野編集委員長より、投稿状況について主に以下の報告があった。

- 2011年1月1日～10月31日の新規投稿は239件となり、論文種類の内訳は、Invited Review3編、Review Article7編、Original Article186編、Case Report27編、Short Communication15編、perspective1編であった。
  - 2011年10月31日の採択率は26.2%となっており、審査がより厳しくなっている。
  - 2011年10月31日国別投稿状況としては国内19%、海外81%となっている。
  - 国別投稿数について、国外では、中国、韓国等が多い。
  - 投稿受付からFinal Decisionまでの平均査読日数については、昨年より、平均的に短くなっており、改善されてきている。
  - Rejectの場合、査読日数が多いとクレームに繋がりがやすいため、注意が必要である。
  - 査読担当状況については、各Associate editorへ均等の担当数となるように割り振りしている。
  - 査読者の数によって、平均査読日数が変動している。原則として査読者2名で審査を進め、意見が分かれた場合のみ、3人目の査読者をたてることとしている。
- また、Invited Reviewや、投稿のReview Articleについては、ダウンロード数や引用回数の増加に直結するため、ぜひ関係の先生方へ投稿を呼び掛けるよう依頼があった。また、ガイドラインやPerspective等、トピックスとなるものもぜひ掲載したいとの提案があった。なお、Reviseの判定のコメント欄に、「改訂していただいたとしても、必ず採択されるとは限らない」趣旨のコメントを追加してはどうかとの提案があり、了承した。

#### 2. 発行状況(p.6)

清野編集委員長より、28巻4号～29巻5号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。

#### 3. オンラインジャーナルダウンロードおよび引用について(別添資料)

清野編集委員長より、オンラインジャーナルダウンロード回数および引用回数について、シュプリンガー社からの資料に基づき、報告があった。また、ダウンロード回数上位論文について、

Review article が多い傾向である旨、補足説明があった。ダウンロードの国別内訳としては、アメリカ、日本、フランスが多いとの報告があった。なお、Invited Review については、1月号に掲載すると、引用期間が長くとれることと、現在シュプリンガー社のサービスとして、1月号掲載の全論文が1年間フリーでダウンロード可能であることから、なるべく、1月号に掲載していきたいとの提案があり、了承した。

#### 4. 平成24年度科研費の申請について(p.7-15)

清野編集長より、11月中旬に提出した平成24年度科研費の申請書について、資料に基づき報告があった。

#### 5. シュプリンガー・ジャパン社セミナーについて(p.16-18)

編集事務局より、シュプリンガー・ジャパン社主催のセミナー「Abstracting & Indexing 最新動向」に出席した旨、報告があり、Impact Factor 値の向上の戦略については、下記の対策が有効である旨、説明があった。

- Review Article を増やす。
- 主要な論文や特集論文などは、引用される期間を可能な限り長くするため、年の始めに掲載する。
- 引用数の高い論文の著者やテーマを取り上げる。
- ホットトピックスに関する特集号を組む。
- Invited Review を掲載する号には、関連する内容の論文を同時に掲載すると、同時に引用されやすい。

#### 6. その他

##### a) Reject について

清野編集長より、査読に進めるにふさわしくないレベルの論文投稿があった場合には、適宜、査読を進めず、不採択にしてよいのではないかと提案があり、了承した。また、その場合、より丁寧な送付状を添付したほうがよいことから、事務局より、過去の例文を準備し Associate editor へ配布することとした。

##### b) 査読コメント欄の記入について

査読判定結果を入力する画面の中で、Editor へのコメントと、著者へのコメントを記入する欄の区別がつきにくいと、シュプリンガー社へ改善を依頼してはどうかとの提案があり、了承した。

##### c) 論文盗作の防止について

野田委員より、別の雑誌で査読論文について、既存の論文の盗作であったことが判明した事実があったことが報告され、JBMM についても対策を講じてはどうかとの提案があった。協議の結果、まずはシュプリンガー社へ、現在行っている対策をヒアリングすることとした。

##### d) Reviewer への賞の設置について

野田委員より、質の高い査読をしてくださった先生方について、Best Reviewer 賞(仮名称)といったアワードを設けてはどうかとの提案があり、詳細については、継続して審議することとした。

#### <第34回 JBMM 編集委員会議事録>

日時: 2012年3月30日(金)13:00~13:45

場所: 千里ライフサイエンスセンター 5階 502号室

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

#### 1. 投稿状況(p.1-4)

清野編集委員長より、投稿状況について主に以下の報告があった。

- 2011年1月1日~12月31日の新規投稿は285件となり、論文種類の内訳は、Invited Review 5編、Review Article 9編、Original Article 225編、Case Report 29編、Short Communication 16編、Perspective 1編であった。
  - 2011年度の採択率は24.8%となっており、審査がより厳しくなってきた。
  - 2012年3月10日国別投稿状況としては国内31%、海外69%となっており、アジアからの投稿数が増えてきている。
  - 各国別の投稿数および採択率は徐々に平均化されてきている。
  - 投稿受付から Final Decision までの平均査読日数については、昨年より、平均的に短くなっており、改善されてきている。
  - 査読判定状況について、各 Associate editor の判定日数はだいぶ平均化されてきたが、担当者によって日数にばらつきがあるため、引き続き、判定日数が短くなるよう努めてほしい。
  - 査読担当状況については、各 Associate editor へ均等の担当数となるように割り振りしている。
  - Short communication として投稿された論文の中で、フルペーパーに該当する論文が多いため、審査を厳しくしてほしい。
  - 質の悪い論文については、Associate editor が Reject の判定を下すよう依頼していたが、だいぶ定着してきた。
  - Associate editor の田中弘之委員については、現在担当している論文の判定が終わり次第、Associate editor を降る予定である。
  - Invited Review や、投稿の Review Article については、ダウンロード数や引用回数の増加に直結するため、ぜひ関係の先生方へ投稿を呼び掛けてほしい。また、ガイドラインや Perspective 等、トピックスとなるものもぜひ掲載したい。
- なお、松本委員より、大菌委員が中心となり作成中のくる病



骨軟化症 FGF23 やビタミン D 結合等の基準値を入れた論文を内分泌学会誌に投稿する予定だが、内容を少し変更した論文を JBMM にも投稿してはどうかとの提案があり、了承した。

## 2. 発行状況 (p.6)

清野編集長より、28 巻 6 号～30 巻 2 号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。

## 3. オンラインジャーナルダウンロードおよび引用について (p.7-8)

清野編集長より、オンラインジャーナルダウンロード回数および引用回数について、シュプリンガー社からの資料に基づき、報告があった。

## 4. インパクト・ファクター値について (p.9-11)

清野編集長より、2010 年度インパクト・ファクター値について、下記のとおり報告があった。

- ・2010 年度発表のインパクト・ファクター値は、2.238 である。
- ・2008 年も 2.0 を記録したが、当時より掲載数が増加しつつも、引用回数も多くなっているため、傾向としては順調に伸びてきている。

## 5. 非会員レフェリーについて (p.12-13)

清野編集長より、非会員レフェリー (国内 40 名・海外 22 名) 一覧の提示があり、海外の非会員レフェリーが増えてきていることは良い傾向である旨、報告があった。

## 6. Editorial Manager 類似論文検索機能について (p.14-17)

清野委員長より、シュプリンガー社では論文の盗作防止のため、論文タイトルと著者名を対象に類似度を調べることが出来る「iThenticate」というシステムを導入している旨、報告があった。また、今後、論文全体の内容を対象に類似度を調べることの出来るシステムの導入をシュプリンガー社が行う予定である旨、合わせて報告があった。

## 7. Reject 論文の再投稿について

清野編集長より、一度 Reject された論文に Revise のコメントを付けた状態で再投稿があったため、Revise のコメントを削除し、新規投稿として改めて投稿してもらうよう著者に依頼した旨、報告があった。

## <第 35 回 JBMM 編集委員会議事録>

日時:2012年5月25日(金)16時15分～16時45分

場所:千里ライフサイエンスセンター5階 502号室

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

## 1. 投稿状況 (p.1-5)

清野編集長より、投稿状況について主に以下の報告があった。

- ・2012年1月1日～5月15日の新規投稿は113件となり、論文種類の内訳は、Invited Review 0編、Review Article 2編、Original Article 95編、Case Report 11編、Short Communication 4編、Rapid Communication 1編であった。
  - ・2012年度の採択率は6.1%となっており、審査がより厳しくなっている。2012年以降の投稿論文では、5月の時点で採択が4編のみとなっている。
  - ・2012年5月15日国別投稿状況としては国内30%、海外70%となっており、アジアからの投稿数が増えてきている。
  - ・Invited Review や、投稿の Review Article については、ダウンロード数や引用回数の増加に直結するため、ぜひ関係の先生方へ投稿を呼び掛けてほしい。また、ガイドラインや Perspective 等、トピックスとなるものもぜひ掲載したい。
  - ・投稿受付から Final Decision までの平均査読日数については、昨年より、平均的に短くなっており、改善されてきている。特に Reject 論文については、早めに著者へ通知してほしい。
  - ・査読判定状況について、各 Associate editor の判定日数はだいたい平均化されてきたが、担当者によって日数にばらつきがあるため、引き続き、判定日数が短くなるよう努めてほしい。
- 清野編集長より、Case Report については、従来と同様、審査を厳しくしてよいが、採択率がこれ以上下がると、投稿数も減少する可能性もあることから、原著論文については、採択率を上げていただくよう、呼びかけがあり、7月の評議員会においてもその旨周知することとした。なお、本委員会の Associate editor には任期を設けていないことから、editor の負担を考慮し、継続確認のアンケートを送る予定であるとの報告があった。

## 2. 発行状況 (p.6-7)

清野編集長より、29巻1号～30巻3号の発行状況、掲載論文数、ならびに掲載論文の国内外の内訳について報告があった。なお、採択率が厳しくなっていることから、掲載待ち論文が減少しているため、改訂原稿については、早めに採択へ進めるよう依頼があった。

## 3. オンラインジャーナルダウンロードおよび引用について (p.8-10)

清野編集長より、オンラインジャーナルダウンロード回数および引用回数について、シュプリンガー社からの資料に基づき、報告があった。

## 4. 科研費採択について (p.11)

清野編集長より、JBMM 発行費について申請していた日本学

術振興会平成 24 年度科研費(学術定期刊行物)について、510 万円の交付内定通知が届いた旨、報告があった。

#### 5. JBMM 論文賞の選考について(別添資料)

清野編集長より、2012 年 5 月 15 日時点の第 27 巻～29 巻掲載論文における引用回数の上位一覧の提示があった。協議した結果、会員で第 1 位の引用回数となった下記の論文(原著論文)を今年の受賞者としてはどうかとの提案があり、理事会へ推薦することとした。

Original Article

「Prevalence of knee osteoarthritis, lumbar spondylosis, and osteoporosis in Japanese men and women: the research on osteoarthritis/osteoporosis against disability study」

第 27 巻 5 号、620～628 頁

筆頭著者: 吉村 典子先生

#### 6. その他(p.12-13)

・米田理事長より、韓国や中国など、海外からも Associate editor の参加を検討してはどうかとの提案があり、前向きに進めることとした。

・採択率については、これまでより引き上げる方向で進めるが、質の高い論文を掲載し、インパクト・ファクター値では、CTI に近づきたいとの提案があり、了承した。

・レフェリーへの謝辞と御礼について、謝辞は現状通り、毎年 6 号に一覧を掲載することとし、御礼(国内:図書カード1,000 円分、海外:日本土産(2,000 円相当のボールペン))については、非会員レフェリーのみではなく、会員のレフェリーにも送付することとした。また、図書カードに代わり、QUO カードにしてはどうかとの提案があり、昨年の、レフェリーと担当論文数の分布を考慮しながら、金額と送付者数を決定することとした。

・多くの査読を担当しているレフェリーについて、Excellent Reviewer 賞を設けてはどうかとの提案があり、継続して審議することとした。

#### <第 8 回椎体骨折評価委員会>

日時: 2012 年 5 月 18 日 7 時 00 分～8 時 45 分

場所: 京都国際会館 2 階 Room J

出席者: 森 諭史(委員長)、伊東昌子、遠藤直人、加藤義治、宗圓 聡、戸川大輔、徳橋泰明、中野哲雄、萩野 浩、藤原佐枝子(各委員)

同席者: 古賀 肇、鈴木正信、田 大己(日本骨粗鬆症学会事務局)、日本骨代謝学会事務局、寺崎 繁雄(ライフサイエンス出版社)

欠席者: 上村夕香里(委員)、芝 朋美(日本骨形態計測学会事務局)

#### 【報告事項】

- 1) 第 7 回委員会議事録 報告(資料1)
- 2) 椎体骨折 SQ/QM 判定の進捗状況報告
- 3) 脊椎脊髄病学会シンポジウム報告(資料2)

#### 【審議事項】

- 1) 椎体骨折判定基準(委員会案 Version1.3) (資料3)  
脊椎脊髄病学会のシンポジウム以降のコメントをもとに再検討
- 2) 用語解説(委員会案 Version1.2) (資料4)  
脊椎脊髄病学会のシンポジウム以降のコメントをもとに再検討
- 3) 日整会シンポジウム打ち合わせ(資料5)
- 4) 今後の行程の決定
  - 1) 改訂椎体骨折判定基準と用語解説の承認  
用語解説は用語委員会のある学会では打診する必要がある。  
6 学会理事会での承認  
論文化 (SQ/QM 検証論文投稿 改訂基準の JBMM publication)
  - 2) 改訂基準の公表: 日本骨粗鬆症学会(新潟)  
9 月 27～29 日
  - 3) 本委員会の業績を出版(ライフサイエンス社)
  - 4) 次回の委員会の予定案  
日本骨粗鬆症学会(新潟) 9 月 27～29 日会期中

#### <第 3 回原発性骨粗鬆症の診断基準改訂検討委員会>

日時: 2012 年 3 月 11 日(日) 13 時 00 分～14 時 30 分

場所: 東京国際フォーラム 4 階 G408

出席者: 福永仁夫(委員長)、杉本利嗣(副委員長)、宗圓 聡(委員長代行)、遠藤直人、五來逸雄、白木正孝、曾根照喜、萩野 浩、藤原佐枝子、細井孝之(各委員)、太田博明(オブザーバー)、友光達志(アドバイザー)

欠席者: 米田俊之(オブザーバー)

同席者: 古賀 肇、田 大己(日本骨粗鬆症学会事務局)  
日本骨代謝学会事務局

議題:

1. 第 2 回委員会の議事録(案)について  
2011 年 11 月 3 日に開催された第 2 回委員会の議事録(案)について内容を確認のうえ、承認された。
2. 原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)(案)について  
宗圓委員長代行、藤原委員、曾根委員により作成された原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)(案)の提示があり、各委員から意見を求め、協議した。

主たる検討事項

- (1) 既存骨折種による分類の追加  
既存骨折のうち、椎体および大腿骨近位部骨折があれば、骨密度と関係なく骨粗鬆症とし、その他の骨折がある場合は骨量減少例を骨粗鬆症とする。

- (2) 骨密度の測定部位  
原則として腰椎または大腿骨近位部とする。
- (3) 大腿骨骨密度の YAM  
国際基準に合わせて 20-29 歳とする。
- (4) 骨密度の表記  
①腰椎と大腿骨近位部は SD と%を併記する。  
②橈骨と中手骨は%表記とする。  
③骨量減少(low bone mass)は-2.5SD より大きく-1.0SD 未満とする。  
骨量減少の一部の症例は薬物治療の対象になる(骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン(2011 年版))。
- (5) 腰椎骨密度の測定値  
①原則として L1~L4 を測定する。  
②L1~L4, L2~L4 の測定値を採用する。
- (6) 男性の骨密度測定部位  
大腿骨と腰椎を用いる。
- (7) QUS の取り扱い  
QUS は採用しない。
- (8) その他  
①severe osteoporosis の定義については、骨密度、既存骨折数、骨折グレードなどのデータを再調査の上、決定する。

#### 4. その他

- ・本診断基準(2012 年度改訂版)(案)が作成後には、パブリックコメントを求める予定である。
- ・次回委員会は平成 24 年 6 月 3 日(日) 13:00 に行う予定。

#### <第 4 回原発性骨粗鬆症の診断基準改訂検討委員会>

日時: 2012 年 6 月 3 日(日) 13 時 00 分~14 時 30 分

場所: 東京国際フォーラム 4 階 G408

出席者: 福永仁夫(委員長)、杉本利嗣(副委員長)、  
宗圓 聡(委員長代行)、遠藤直人、五來逸雄、  
白木正孝、曾根照喜、萩野 浩、細井孝之(各委員)、  
太田博明(オブザーバー)、友光達志(アドバイザー)

欠席者: 藤原佐枝子(委員)、米田俊之(オブザーバー)

同席者: 古賀 肇、鈴木正信、田 大己(日本骨粗鬆症学会事務局)、日本骨代謝学会事務局

#### 議題:

1. 第 3 回委員会の議事録(案)について  
2012 年 3 月 11 日に開催された第 3 回委員会の議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。
2. 原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)(案)について  
宗圓委員長代行、藤原委員、曾根委員により作成された原発性骨粗鬆症の診断基準(2012 年度改訂版)(案)の提示があり、協議した。結果、以下の事項を確認した。

主たる検討事項

- (1) 重症骨粗鬆症および骨折の危険性の高い骨粗鬆症の定義を入れるか否か。  
重症骨粗鬆症および骨折の危険性の高い骨粗鬆症の定義を入れることとし、表 2 の付記に記載されていた上記の定義は削除することとした。
- (2) 骨折の危険性の高い骨粗鬆症の定義を入れる場合に A-TOP 研究会のリスクとして骨密度-3.5SD (-3.0SD?) という基準を追加するか否か。  
-3.5SD という基準は追加しないこととした。
- (3) -1.0SD に相当するカットオフ値を追加するか否か。  
-1.0SD に相当するカットオフ値は追加しないこととした。
- (4) 脆弱性骨折の診断基準に記載されている YAM の 80%未満の表記を-1.0SD に変更するか否か。  
現行通りのままとし、変更しないこととした。

#### 3. その他

- ・BMD の数値については、曾根委員が DXA 装置メーカーへ引き続き確認を行うこととした。
- ・パブリックコメントを得る方法として、今年 9 月に開催される日本骨粗鬆症学会にて骨粗鬆症学会・骨代謝学会合同のシンポジウムを行い、会員からの意見を収集することとした。また、同シンポジウム開催までに各学会の評議員を対象に、学会 HP または郵送物で改訂案を閲覧できるようにし、事前に意見を収集することとした。

今後の学会予定

#### ●IBMS-JSBMR 2013 (第 31 回日本骨代謝学会)

会期: 2013 年 5 月 28 日(火)~6 月 1 日(土)

会場: 神戸国際会議場、ポートピアホテル

会長: 野田 政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子薬理学)

Japan Day 会長: 吉川 秀樹(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)

ホームページ:

<http://www2.convention.co.jp/ibms-jsbmr2013/>

E-Mail:

JCS-JSBMR-ibms2013@convention.co.jp

\* 演題募集期間:

IBMS-JSBMR 2013:

2012 年 9 月 1 日(土)~2012 年 12 月 1 日(土)

第 31 回日本骨代謝学会学術集会

2012 年 11 月 15 日(木)~2013 年 1 月 15 日(火)

\* 事前登録参加:

2012 年 10 月 15 日(月)申込受付開始予定

参加登録費	事前登録 1 (2012年10月15日～2013年2月28日)	事前登録 2 (2013年3月1日～2013年5月20日)
IBMS/JSBMR 会員	40,000 円	50,000 円
非会員	55,000 円	65,000 円
大学院生・初期研修医	35,000 円	40,000 円

懇親会費	参加者	同伴者
インターナショナル イブニング	3,000 円	6,000 円
ジャパニーズ イブニング	3,000 円	6,000 円

### ●第 32 回日本骨代謝学会

会 期: 2014 年 7 月 24 日(木)～26 日(土)  
 会 場: 大阪国際会議場  
 会 長: 杉本 利嗣(島根大学医学部内科学講座内科学第一)

関連学会の大会開催予定

### ●第 9 回 Bone Biology Forum

会 期: 2012 年 8 月 24 日(金)13 時～25 日(土)15 時(予定)  
 会 場: 富士教育研究所  
 (〒410-1105 静岡県裾野市下和田 656 TEL:055-997-0111)  
 ホームページ: <http://www.bone-biology.com>

#### 特別講演

- ① Henry Kronenberg 先生(Harvard Medical School)
- ② Joseph Penninger 先生(Institute of Molecular  
Biotechnology of Austrian Academy of Sciences)
- ③ 宮園浩平先生(東京大学大学院医学研究科分子病理  
学分野)

その他、一般講演・話題提供等

参加費: 一般 10,000 円、学生 3,000 円  
 問合せ先: 第 9 回 Bone Biology Forum 運営事務局  
 (9th\_meeting\_bbf2012@ac-square.co.jp)

### ●第 38 回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会

会 期: 2012 年 9 月 14 日(金)～15 日(土)  
 会 場: パシフィコ横浜  
 会 長: 筒井 廣明(昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
スポーツ整形外科)  
 テーマ: スポーツと整形外科の Cross-Link  
 ホームページ: <http://www.issjp.com/jossm2012>

### ●第 14 回日本骨粗鬆症学会 骨ドック・健診分科会

会 期: 2012 年 9 月 27 日(木)～29 日(土)  
 会 場: 新潟コンベンションセンター  
 会 長: 遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科  
整形外科学分野)  
 テーマ: 骨折連鎖を断つ

ホームページ:

<http://shinsen.biz/amjos14/index.html>

### ●The ASBMR (The American Society for Bone and Mineral Research) 2012 Annual Meeting

会 期: 2012 年 10 月 12 日(金)～15 日(月)  
 会 場: Minneapolis, Minnesota(USA)  
 ホームページ:  
<http://www.asbmr.org/Meetings/AnnualMeeting.aspx>

### ●第 15 回癌と骨病変研究会

開催日: 2012 年 11 月 2 日(金)  
 開催場所: 千代田放送会館(東京都千代田区紀尾井町 1-1)  
 参加費: 5,000 円  
 ・共催セミナー、特別講演、指定演題、一般演題  
 一般演題募集: 下記HPにて 7 月上旬頃より応募開始予定  
 多数のご応募お待ちしております。  
 ホームページ: <http://www.sec-information.net/jscbd>  
 事務局: (株)グラフィティ内  
 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-20-2 ベル赤坂 1 階  
 TEL:03-3583-1745 FAX:03-3583-1741  
 E-mail: [jscbd@graffiti97.co.jp](mailto:jscbd@graffiti97.co.jp)

### ●第 6 回 骨・軟骨フロンティア(BCF)

The 6th Meeting of Bone and Cartilage Frontier  
 会 期: 2012 年 11 月 17 日(土) 13 時～18 時 30 分  
 会 場: ベルサール八重洲  
 東京都中央区八重洲 1-3-7  
 八重洲ファーストフィナンシャルビル 3F  
 共 催: 骨・軟骨フロンティア/旭化成ファーマ株式会社  
 事務局: 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔病  
 理学分野  
 FAX: 03-5803-0188  
 E-Mail: [bc\\_frontier@mail.goo.ne.jp](mailto:bc_frontier@mail.goo.ne.jp)

### ●第 7 回 Bone Research Seminar

会 期: 2013 年 2 月 15 日(金)・16 日(土)  
 会 場: 東京コンファレンスセンター  
 ホームページ:  
<http://www.conet-cap.jp/bresearch/index.html>

### ●ECTS 2013

会 期: 2013 年 5 月 18 日(土)～21 日(火)  
 会 場: Lisbon (Portugal)  
 ホームページ:  
<http://www.ectscongress.org/2013/default.htm>

### ●第 86 回日本整形外科学会学術総会

会 期: 2013 年 5 月 23 日(木)～26 日(日)  
 会 場: 広島市  
 会 長: 越智 光夫(広島大学大学院整形外科学)  
 テーマ: 整形外科 彰往察来 -Let's learn from history-  
 演題募集: 2012 年 7 月 10 日(火)～9 月 10 日(月)  
 ホームページ: <http://www.joa2013.jp/index.html>